

記念植樹を大切にしていけるために



陵南中の体育館の西側を中心に、今から40年前の創立当時に植樹したとされる樹木があります。それがコノテヒバとタラヨウです。コノテヒバ…中国原産のヒノキ科コノテガシワ属の常緑針葉樹で、別名「コノテガシワ」と

も呼ばれる人気の庭木（コニファー）です。小枝が垂直に立ち上がり、子供が手のひらを立てているように見える独特の葉の生え方が名前の由来となっています。またタラヨウ（多羅葉）…モチノキ科の常緑高木で、葉の裏面に傷をつ



けると黒く変色して文字が残る性質があり、その葉に文字を書いて文通に使っ



ていたことが「葉書（はがき）」の語源とされていることから、「ハガキノキ」とも呼ばれています。当時のことを知る人に聞いてみると、どちらの木もかつて予算のない中で、地域の方が生徒のためにと寄付してくださ

り植樹したとても思い入れのある樹木であるということでした。そんな思いの詰まった木をこれからも大切にしたいという思いから美術部の協力で、樹木銘板を作成しました。美術部の3年生が時間をかけて製作してくれました。夏休みにそれぞれの樹木にかけていますので、



創立当時のことに思いを馳せながら見てもらいたいと思います。また中庭をは



じめとして他の場所にも記念植樹がたくさんあることもわかりました。創立当時から学校のことに気を配ってくださる地域の方のおかげで今があることが実感できました。中学校は地域の方の避難所にもなる地域の大切な場所でもあります。その場所を大切にしたいという思いも併せて、これ

からも学校の財産として大切に育てていきたいと思います。美術部の皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

